

製品名: MAPK14 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM81212**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC,ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ICC 1:50-1:100,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	41.3kDa

抗原情報

遺伝子名	MAPK14
別名	RK; p38; CSBP; EXIP; Mxi2; CSBP1; CSBP2; CSPB1; PRKM14; PRKM15; SAPK2A; p38ALPHA
遺伝子 ID	1432.0
SwissProt ID	Q16539
免疫原	大腸菌で発現したヒト MAPK14 (AA: 299-360) の精製された組み換え断片。

背景

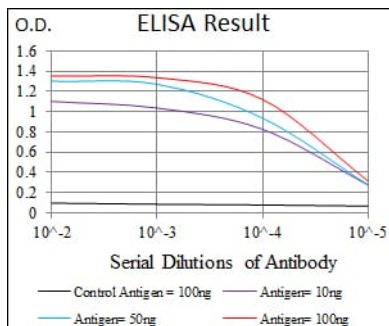
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、MAP キナーゼファミリーのメンバーです。MAP キナーゼは、複数の生化学シグナルの統合点として機能し、増殖、分化、転写調節、発達など、さまざまな細胞プロセスに関与しています。このキナーゼは、さまざま

まな環境ストレスや炎症性サイトカインによって活性化されます。活性化には、MAPキナーゼキナーゼ (MKK) によるリン酸化、または MAP3K7IP1/TAB1 タンパク質とこのキナーゼとの相互作用によって引き起こされる自己リン酸化が必要です。このキナーゼの基質には、転写調節因子 ATF2、MEF2C、MAX、細胞周期調節因子 CDC25B、腫瘍抑制因子 p53 などがあり、このキナーゼがストレス関連の転写と細胞周期調節、および遺伝毒性ストレス応答に役割を果たしていることが示唆されています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする4つの選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。

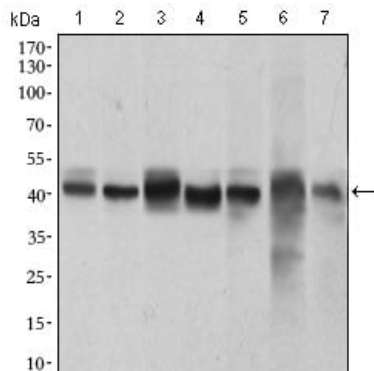
研究分野

アポトーシス、TGF-βシグナル伝達経路、MAPKシグナル伝達経路

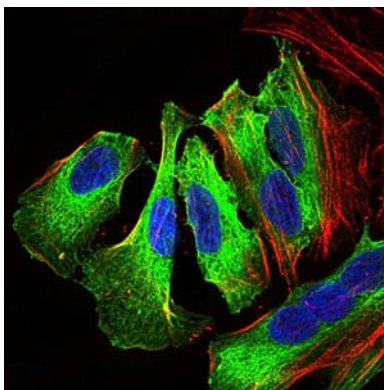
画像データ



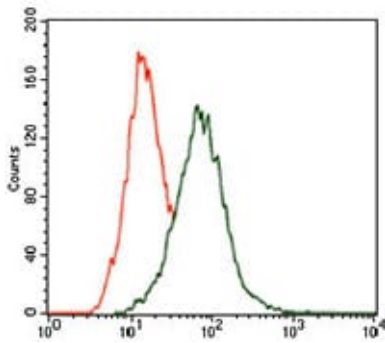
黒線: コントロール抗原 (100 ng); 紫線: 抗原 (10 ng); 青線: 抗原 (50 ng); 赤線: 抗原 (100 ng);



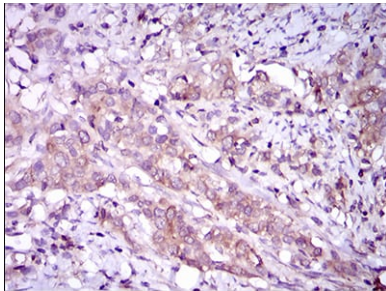
HeLa (1) 、 NIH/3T3 (2) 、 Jurkat (3) 、 Raw264.7 (4) 、 PC-12 (5) 、 C6 (6) 、 COS7 (7) 細胞溶解物に対する MAPK14 マウス mAb を用いたウエスタンブロット解析。



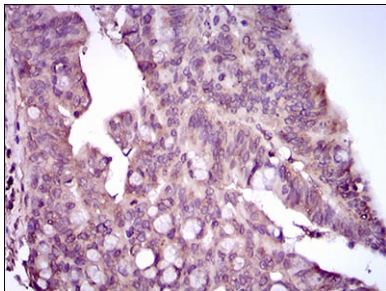
MAPK14 マウス mAb (緑) を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。赤: Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識されたアクチンフィラメント。



MAPK14 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した HeLa 細胞のフローサイトメトリー分析。



MAPK14 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト子宮頸癌組織の免疫組織化学分析。



DAB 染色による MAPK14 マウス mAb を使用したパラフィン包埋ヒト直腸癌組織の免疫組織化学分析。